

## 【目的】

専業主婦は、有業女性に比べて高血圧症や心疾患などの成人病の発生率が高く、肥満傾向にあると言われている。我々は、その原因がエネルギーバランスの崩れにあるのではないかと考え、「家事労働が軽減され、消費エネルギー量が減少したにも関わらず、食行動や食生活パターンが改善されていないため、専業主婦に成人病や肥満が多い」という仮説を立てた。本研究は、この仮説の証明を目的とする。

## 【方法】

専業・有業者の家事労働に対する意識の差、ならびに食生活の傾向は、意識調査（平均年齢 47.5 歳、120 名）によった。実際の摂取エネルギー量の比較は、栄養実態調査によった。家事労働による消費エネルギー量は、生活時間調査の結果から作成したモデルパターンに基づき、万歩計により推定した。家事労働様式の変化による消費エネルギー量の差は、呼気分析装置（MMC4400tc, SENSORMEDICS社製）による酸素消費量の測定値から求めた。

## 【結果および考察】

①専業主婦は有業者に比べ、家事労働が楽になっていると答えた人が多かった。②食生活のパターン・消費エネルギー量については、専業主婦と有業者で予期のごとく特徴的な傾向がみられた。以上の結果から、専業主婦の摂取・消費エネルギー量のバランスが崩れていると考えられる。この原因が、家事労働の社会化にあるのではないかとこの点に焦点を当てて、現在検討中である。